

## 社長メッセージ

### 来期の復配に向けての資本政策について

阪和興業は、平成13年1月26日付けで、子会社物流部門の再編とこれに伴う業績の修正を行い、あわせて来る6月の定時株主総会において、資本準備金による欠損金填補及び額面超過額による無償の資本減少をお願いすることを発表いたしました。

弊社の経営課題は、早期の復配を行うことにあります。これら一連の事業再構築と資本政策を実施することにより、結果として連結欠損金の解消に繋がり、連結会計時代に対応したバランスシートの実現が図られ、また、来期からの復配を目指すことができます。

加えて、弊社はこの度2001年度を初年度とする3ヶ年の「中期経営計画」を策定いたしましたので、ご高覧賜りたくお願い申し上げます。

阪和興業株式会社

代表取締役社長 北 修爾

平成 13 年 1 月 26 日

各 位

上場会社名	阪和興業株式会社
代表者名	代表取締役社長 北 修爾
コード番号	8 0 7 8
上場取引所	東証・大証第 1 部
問合せ先	経理部長 秋元 哲郎
T E L	(03) 3544 - 2000

## 子会社合併による物流部門の再編とそれに伴う業績予想の修正、資本準備金による欠損填補及び資本減少について

弊社は平成 13 年 1 月 26 日開催の取締役会において、株式会社阪和流通センターの吸収合併、それに先立ち株式会社阪和流通センター株式の評価損を計上することを決議し、さらに、これにより発生する欠損金処理方法としては資本準備金による欠損填補及び資本の減少により対応する方針とすることを決議いたしましたのでお知らせいたします。

なお、株式会社阪和流通センターの再構築及び合併については下記、平成 13 年 3 月期の業績予想の修正については下記、資本準備金による欠損填補及び資本の減少については、下記に記載のとおりです。

### 趣旨及び概要

#### 1. 子会社物流部門の再編の目的

株式会社阪和流通センターは、阪和興業グループの物流の集約と合理化推進のため、平成 6 年 1 月に設立されました。爾後、同社は阪和興業の物流子会社としての実績をかさね、さらに阪和興業グループ以外からの流通倉庫業務の受注等の実績により、平成 12 年 3 月期は、売上高 182 億円・税引後利益 2,210 万円を計上しております。

このように、株式会社阪和流通センターの収益は黒字基調を維持しているものの、事業規模に対して総資産額が大きく、平成 12 年 3 月期の総資産回転率は 0.19 回にとどまっております。近年の景気の低迷等によって経営環境が一段と厳しさを増す中で、阪和興業グループにおきましても、経営資源の有効活用と、一層の経営効率の強化のために、中期経営計画(添付資料参照)を策定し、加工・物流の強化及びEコマースの更なる展開を考えております。

こうした状況下、株式会社阪和流通センターの事業を資産効率の良好な、かつ地域特性を活かし、独立採算を目指す新会社 3 社(東京、大阪、名古屋)に営業譲渡した後、弊社と株式会社阪和流通センターが合併することにより有形固定資産の一元管理をすることが、グループ経営の効率化・意思決定の迅速化・さらには競争力の強化に資するとの結論に至ったものであります。

以上のような諸事情を考慮した結果、弊社と株式会社阪和流通センターの経営資源を再配分し、経営の効率化をはかり、財務体質の強化を図ることが、お客様や株主の皆様のご期待に添える最善の方策であると判断いたしました。

## 2. 再編による合併の効果

今後の会計制度においては、連結決算は単体決算と並ぶ重要な企業情報となり、また、時価会計制度の導入により資産の時価評価が重要なテーマとなっています。この観点から、弊社の平成12年3月期末の貸借対照表の資本の部を検証いたしますと、下記のようになっており、単体決算と連結決算で剰余金においてゆがみが生じております。

### 【単体：平成12年3月31日現在】

資本金	82,645 百万円
資本準備金	19,227 百万円
剰余金	542 百万円
合計	102,415 百万円

### 【連結：平成12年3月31日現在】

資本金	82,645 百万円
資本準備金	19,227 百万円
欠損金	74,837 百万円
合計	27,035 百万円

これは、現行制度において、資産の評価が、必ずしも時価評価になっていないこと等に起因しており、今回の合併によりこのゆがみは解消されます。合併期日（平成13年4月1日）の貸借対照表の資本の部は次のようになる見込みです。

### 【単体：平成13年4月1日予想】

資本金	82,645 百万円
資本準備金	19,227 百万円
欠損金	55,858 百万円
合計	46,014 百万円

### 【連結：平成13年4月1日予想】

資本金	82,645 百万円
資本準備金	19,227 百万円
欠損金	54,420 百万円
為替換算調整勘定	5,189 百万円
合計	42,263 百万円

（註）為替換算調整勘定については、平成12年9月末の数値を使用しております。

### 3. 復配体制準備のための資本準備金による欠損填補及び資本減少

弊社は、平成7年3月期より、遺憾ながら無配を継続しており、株主の皆様には、ご迷惑をおかけしております。

一方、平成9年度及び平成11年度に実施した自己株式の消却により、適正な発行済株式総数となっております。

また、弊社の業績は、平成12年3月期より、営業利益・経常利益ともに増益基調にあり、業績においては、平成6年3月期と比べて遜色のない水準に回復しており、中期経営計画においても平成13年3月期以降も増益基調を見込んでおります（下表参照）。

これに対して、グループ経営の強化をはかるため株式会社阪和流通センターを吸収合併することから、今期末の単体の欠損金は、55,858百万円となる予定であり、この欠損金を期間損益で解消するには、相当程度の期間が必要となります。

そこで、株主の皆様には、来る6月の定時株主総会において、資本準備金による欠損填補及び額面超過額による無償の資本減少をお願いする予定であります。この資本減少は、可能な限り早期の復配体制準備のために行うものであり、結果として、株主の皆様への利益の還元につながるものと確信しております。

#### 【中期経営計画の数値目標】

（単位：百万円）

		業績予想	数値目標		
		平成13年3月期	平成14年3月期	平成15年3月期	平成16年3月期
単体	売上高	665,000	668,000	703,000	730,000
	営業利益	7,800	9,000	10,400	11,200
	経常利益	2,000	6,200	7,500	8,300
	当期利益	56,400	6,200	7,500	6,100
連結	売上高	670,000	678,000	713,000	740,000
	営業利益	9,100	9,300	10,600	11,600
	経常利益	3,400	7,400	8,600	9,400
	当期利益	2,400	7,000	8,200	6,800

## ．株式会社阪和流通センターの再構築及び合併について

### 1．株式会社阪和流通センターの再構築及び合併の趣旨

株式会社阪和流通センターの事業を資産効率の良好な、かつ地域特性を活かした独立採算をめざす新会社3社に営業譲渡します。加えて、営業譲渡後の株式会社阪和流通センターを弊社へ吸収合併し、有形固定資産の一元管理をすることがグループ経営の効率化、意思決定の迅速化、さらには競争力の強化に繋がるものと考えております。

### 2．合併の要旨

#### (1) 合併の日程

	阪和興業株式会社	株式会社阪和流通センター
合併契約書承認取締役会	平成13年1月26日	平成13年1月26日
合併契約書調印	平成13年1月26日	平成13年1月26日
合併契約書承認株主総会	-	平成13年2月13日
合併期日	平成13年4月1日	平成13年4月1日
合併登記	平成13年4月2日	平成13年4月2日

(註) 阪和興業株式会社は、商法第413条の3(簡易合併)により、株主総会は開催いたしません。

#### (2) 合併方式

阪和興業株式会社を存続会社とする吸収合併方式で、株式会社阪和流通センターは解散します。

#### (3) 合併比率

存続会社である阪和興業株式会社は、消滅会社である株式会社阪和流通センターの全株式を所有しているため、合併にあたり株式会社阪和流通センターの全株式を無償消却し、合併による新株式の発行は行いません。

### 3. 株式会社阪和流通センターによる営業譲渡の内容

#### (1) 営業譲渡の日程

営業譲渡承認取締役会	平成 13 年 1 月 26 日 (実施済)
営業譲渡契約締結	平成 13 年 1 月 26 日 (実施済)
営業譲渡承認総会	平成 13 年 2 月 13 日 (予定)
営業譲渡日	平成 13 年 3 月 30 日 (予定)

#### (2) 営業譲渡先

##### エイチケイ流通センター東京株式会社

本店所在地	千葉県習志野市茜浜三丁目 7 番 2 号
資本金	400 百万円 (平成 13 年 3 月 30 日に 1,000 百万円に増資)
株主	阪和興業株式会社 100%
備考	平成 13 年 4 月 1 日に、阪和流通センター東京株式会社に商号変更

##### エイチケイ流通センター大阪株式会社

本店所在地	大阪府大阪市住之江区南港中一丁目 2 番 9 0 号
資本金	10 百万円 (平成 13 年 3 月 30 日に 460 百万円に増資)
株主	阪和興業株式会社 100%
備考	平成 13 年 4 月 1 日に、阪和流通センター大阪株式会社に商号変更

##### エイチケイ流通センター名古屋株式会社

本店所在地	愛知県海部郡飛鳥村金岡 1 3 番地
資本金	10 百万円 (平成 13 年 3 月 30 日に 300 百万円に増資)
株主	阪和興業株式会社 100%
備考	平成 13 年 4 月 1 日に、阪和流通センター名古屋株式会社に商号変更

#### (3) 譲渡資産

営業譲渡日現在の株式会社阪和流通センターのリース事業を除く、土地、建物以外の営業に属する資産及び負債

#### 4. 合併当事会社の概要

(1) 商号	阪和興業株式会社 (合併会社)	株式会社阪和流通センター (被合併会社)
(2) 事業内容	各種鋼材、非鉄金属、食品、石油化成品、セメント、木材の国内卸売及び輸出入	倉庫業、利用運送業、鉄鋼加工業、鉄筋工事業
(3) 設立年月日	昭和22年4月1日	平成6年1月26日
(4) 本店所在地	大阪府大阪市中央区伏見町四丁目3番9号	大阪府大阪市住之江区南港中一丁目2番90号
(5) 代表者	取締役社長 北 修爾	取締役社長 葛岡 龍夫
(6) 資本金	82,645 百万円	46,000 百万円 *平成13年2月20日付で、52,000 百万円に資本増加予定
(7) 発行済株式総数 (額面金額)	211,663,200 株 (50 円)	920,000 株 (50,000 円) *平成13年2月20日付で、1,040,000 株に増加予定
(8) 株主資本	102,415 百万円	46,124 百万円
(9) 総資産	367,147 百万円	93,195 百万円
(10) 決算期	3月31日	3月31日
(11) 従業員数	910 人	147 人
(12) 主要取引先	新日本製鐵、住友金属工業 日新製鋼	阪和興業、日鉄鋼管 日新鋼管
(13) 大株主及び持株比率	住友銀行(2.8%) 住友信託銀行(2.4%) MLPFS 加付(1.3%) 第一生命保険(1.3%) 東京三菱銀行(1.1%)	阪和興業(100%)
(14) 主要取引銀行	住友銀行、日本興業銀行 住友信託銀行、東海銀行 東京三菱銀行、大和銀行 さくら銀行、富士銀行 あおぞら銀行、三菱信託銀行	住友銀行、東京三菱銀行 住友信託銀行、東海銀行 日本興業銀行、さくら銀行 三菱信託銀行、大和銀行

(註) 数値は平成12年3月31日現在

## 5. 合併当事会社の最近3決算期間の業績

(単位：百万円)

決算期	阪和興業株式会社(合併会社)			株式会社阪和流通センター(被合併会社)		
	H.10.3月期	H.11.3月期	H.12.3月期	H.10.3月期	H.11.3月期	H.12.3月期
売上高	654,364	579,135	620,465	19,217	18,459	18,216
営業利益	5,032	3,542	7,433	1,345	1,086	882
経常利益	2,508	1,725	2,362	290	104	54
当期純利益	5,980	209	333	158	81	22
1株当たり当期純利益 (円)	16.03	0.72	1.39	171.74	88.14	24.02
1株当たり配当金 (円)	0	0	0	0	0	0
1株当たり株主資本 (円)	402.77	403.49	483.86	50,006.45	50,094.59	50,135.00

## 6. 合併後の状況

- (1) 商号 阪和興業株式会社
- (2) 事業内容 各種鋼材、非鉄金属、食品、石油化成品、セメント、木材の国内卸売及び輸出入
- (3) 本店所在地 大阪府大阪府中央区伏見町四丁目3番9号
- (4) 代表者 取締役社長 北 修 爾
- (5) 資本金 82,645 百万円
- (6) 総資産 合併直後 303,000 百万円
- (7) 決算期 3月31日
- (8) 発行済株式総数 211,663,200 株
- (9) 業績に与える影響 消滅会社から土地・建物を承継することにより、存続会社が消滅会社に支払っていた倉庫料が軽減され、営業利益が増加する一方で、借入金の引き継ぎにより金利負担が増加することから経常利益に与える影響は軽微であります。  
消滅会社の土地、建物を承継することによる合併に伴う差損が 58,000 百万円計上されます。

### 合併後の業績見通し(2期分)

	平成14年3月期	平成15年3月期
売上高	668,000 百万円(+450 百万円)	703,000 百万円(+500 百万円)
営業利益	9,000 百万円(+620 百万円)	10,400 百万円(+670 百万円)
経常利益	6,200 百万円( 0)	7,500 百万円( 0)
当期純利益	6,200 百万円( 0)	7,500 百万円( 0)
1株当たり配当金	5 円	5 円

(註)( )内は合併による影響見込額である。



## ．平成 13 年 3 月期業績予想の修正について

上記、株式会社阪和流通センターの再構築及び合併に伴い、平成 13 年 3 月期の単体の業績予想につきましては、平成 12 年 11 月 28 日個別中間財務諸表の概要発表時の業績予想を下表のとおり修正いたします。尚、連結の業績予想につきましては修正はございません。

### 1．平成 13 年 3 月期（平成 12 年 4 月 1 日～平成 13 年 3 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	665,000	2,000	1,600
今回修正（B）	665,000	2,000	56,400
増減額（B） - （A）	0	0	58,000
増減率（％）	0	0	-
（ご参考） 前期実績（平成 12 年 3 月期）	620,465	2,362	333

（金額の単位：百万円）

### 2．修正の理由

単体業績予想の修正理由は、株式会社阪和流通センターを合併することに伴う差損相当額を子会社株式評価損として計上するためであります。

## ・資本準備金による欠損填補及び資本の減少について

### 1．資本準備金による欠損填補について

平成 13 年 3 月期に発生する予定の欠損金 55,858 百万円に関し、資本準備金 19,227 百万円により填補する損失金処理案を、来る 6 月の定時株主総会に付議する予定であります。

### 2．資本減少について

#### (1) 資本減少の目的

欠損金の填補

#### (2) 資本減少の要領

減少すべき資本の額

資本の額 82,645 百万円を 36,631 百万円減少して、46,014 百万円とすることを来る 6 月の定時株主総会に付議する予定であります。

資本減少の方法

額面金額を超えて資本に組み入れた額、72,062 百万円のうち、36,631 百万円を無償で減少する予定であります。

#### (3) 資本減少の日程

来る 6 月の定時株主総会に付議する予定ですが、詳細日程につきましては、決定次第開示いたします。